

出題分析					
試験時間	120 分	配点	100 点	大問数	3 題
分量 (昨年比較)	[減少]	同程度	増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 [同程度] 難化]
【概評】					
<p>I の日本語長文による読解問題は、文章が複数提示される年度と 1 つの長文を用いる年度があるが、今年度は A、B、C 3 つの文章が取り上げられた。全て現代の戦争について述べた評論文であり、全体の文章量は昨年よりも減少している。空欄補充問題中心の設問構成やグラフの読み取り問題、記述説明問題が含まれる点は過去 4 年の傾向通りであった。</p> <p>II は英語長文読解問題であった。例年、与えられる英文は 1 つだけだったが、今年は 2 つの英文が題材となっている。文整序、空所補充、内容一致など、幅広いタイプの設問が出題された。</p> <p>III はオーソドックスな自由英作文問題であった。テーマは II の内容と関連したものである。</p>					

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	総合問題 (和文) A 多湖淳『戦争とは何か』 B 鶴岡路人『欧州戦争としてのウクライナ侵攻』 C 千々和泰明『戦争はいかに終結したか』	A は戦争のコストの高さについて述べ、それに対して交渉が効率的な解決手段であることを指摘した文章 (文中にグラフ 6 つを含む)、B はロシアによるウクライナ侵攻について述べた文章、C は戦争の終結における「紛争原因の根本的解決」と「妥協的和平」をめぐるジレンマについて説明した文章。記述説明問題の字数は昨年度が 110 字であったのに対し、今年度は 80 字と微減した。問 3 のグラフの問題と問 7 の内容把握問題では現代史の知識が活用できる。空欄補充 3 問、記述説明問題 1 問、グラフの読み取り 1 問、抜き出し 1 問、内容把握 1 問、の構成。	標準

設問別講評			
II	総合問題 (英文) 「移民がもたらす影 響」	移民に関して述べた2つの英文を題材に、計8問が出題された。4は日本語記述問題である。また、今年は数値計算を要する設問の出題はなかった。英文は比較的読みやすいが、一部の設問は解答根拠を明確に示すのが難しく、受験生は解答に迷ったかもしれない。	標準
III	自由英作文問題	昨年と同様、IIIでは自由英作文問題が出題された。「日本における移民の増加がもたらしうる問題」について意見を述べる問題である。昨年と比べて解答欄の行数が5行増え、25行になっている。筋の通った論理展開を心掛け、文法・語法のミスに注意しながら自分の意見を明確に述べたい。	標準

合格のための学習法	
<p>日本語の文章による出題では、本文の純粋な読み取りに加え、図表の読み取り、複数の長文の関連付けや比較、「その資料だけから読み取れること」の判別なども求められる。対策としては、まずは現代文・小論文の徹底した演習を行いつつ、これまでの全ての過去問と、可能であれば2020年の3月と7月に公開された、「サンプル問題」にも取り組んでおくこと。それらと並行して、過去問を調べて関連しそうなテーマの新書版書籍などを日頃からよく読むようにしておこう。特に社会問題・政治・経済の話題を扱った様々な議論に、前もって親しんでおくと良いだろう。</p> <p>英語の文章による出題では、分量が多いものの比較的読みやすい文章が扱われる傾向にあるようだ。設問の出題形式は幅広く、年度によっては数値計算が必要な設問も出題される。図表の読み取りや数値の処理が求められる設問は、専門知識が必要なわけではなく、設問文をよく読めば対処できるものである。したがって、まずは英文の論旨を正確に把握する力を養成することから始めよう。また、自由英作文問題の対策として、一貫した意見を英語で表す練習もしておきたい。</p>	